

手ぶくろを買いに

新美 南吉 にいみ なんきち

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさけんで、目をおさえながら母さんぎつねのところへころけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、

ぬいてちょうだい早く、早く。」
と言いました。

母さんぎつねがびっくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。母さんぎつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちには、真っ白な雪がどっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反しやしていたのです。雪を知らなかった子どものきつねは、あまり強い反しやをつけたので、目に何かささったと思ったのです。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのようによわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶきのようにとびちって小さいじがすつとつづるので、するとつぜん、ししるで、ドタドタ、ザーッとものすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつと子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはびっくりして、雪の中にくるがるまっつにして十メートルも向こうへにげました。何だろうと思ってふり返ってみましたが何もいませんでした。それはもみのえだから雪がなだれ落ちたのです。まだえだとえだの間から白いきぬ糸のようにつに雪がこぼれていました。

(新美南吉)「手ぶくろを買いに」より



上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

【場面を読み取る】

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節

登場人物

(六文字)

【内容をたしかに読み取る】

二、部 で、子ぎつねが目には何ですか。思ったものは何ですか。

当てはまるものに丸を付けましょう。

- () 真っ白な雪
- () お日さまの反しやした強い光
- () もみの木の枝

【様子をそとそうしながら読む】

三、A の中には、子ぎつねのことを心配する母さんぎつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろおそろ
- () つぎつきしながら
- () ゆっくりと

【よつすや動きを表す言葉から心情を読み取る】

四、上の文には、ものすごい音とかぶさってきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の に言葉をを入れて完成させましょう。

雪の中に

して

へにげました。

【文章の組み立てをとらえて読む】

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を () に書きましょう。

- () 子ぎつねが初めて雪を見た場面
- () 物語の場面を説明するだん落
- () 子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面

上の文をよく読んで次の問いに答えましょう。

手ぶくろを買いに

新美 南吉

寒い冬が北方から、きつねの親子のすんでいる森へもやって来ました。

ある朝、ほらあなから子どものきつねが出ようとしたが、

「あつ。」

とさげんで、目をおさえながら母さんきつねのところへころけて来ました。

「母ちゃん、目に何かささった、ぬいてちょうだい早く、早く。」

と言いました。

母さんきつねがびっくりして、あわてふためきながら、目をおさえている子どもの手を

A 取り

のけてみましたが、何もささってはいませんでした。

母さんきつねは、ほらあなの入り口から外へ出てはじめてわけが分かりました。昨夜のうちに、真っ白な雪がびっさり降ったのです。その雪の上からお日さまがキラキラとてらしていたので、雪はまぶしいほど反し

やしていたのです。雪を知らなかった子どものきつね

は、あまり強い反しやをうけたので、目に何かささった

と思ったのです。

子どものきつねは遊びに行きました。まわたのよう

にやわらかい雪の上をかけ回ると、雪の粉が、しぶき

のようにとびちって小さいにじがすつとつるもので

した。

するととつぜん、うじるで、ドタドタ、ザッと

のすごい音がして、パン粉のような粉雪が、ふわあつ

と子ぎつねにおっかぶさって来ました。子ぎつねはび

っくりして、雪の中にころがるようにして十メートル

も向こうへにげました。何だろつと思つてふり返つて

みましたが何もいませんでした。それはもみのえだか

ら雪がなだれ落ちたのです。まだえたとえだの間

から白いきぬ糸のように雪がこぼれていました。



物語の最初には、物語の季節や場所、登場人物などが書かれていますよ。

「何もささっていない。」とあるので、子ぎつねがそう思った理由を読み取っていくことが大切です。

気持ちを表す動きですね。母さんきつねの気持ちを考えるといいですね。

注意深くおくびょうな子ぎつねの様子がわかる文章です。文がつながるように書きましょう。

物語には、初めの説明(場面の季節、場所、登場人物など)がかならずありますね。

一、季節と登場人物を文中から抜き出しましょう。(季節 一文字 登場人物 六文字)

季節 **冬**

登場人物 **きつねの親子**
(六文字)

二、子ぎつねが目には何かささったと思ったものは何ですか。

当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろのおそろ
- () 真つ白な雪
- () お日さまの反しやした強い光
- () もみの木の枝

三、A の中には、子ぎつねのことを心配する母さんきつねの気持ちを表す言葉が入ります。当てはまるものに丸を付けましょう。

- () おそろのおそろ
- () つきつきしながら
- () ゆっくりと

四、上の文には、ものすごい音とかぶさってきた雪におどろく様子が書かれています。それはどんな様子でしたか。次の文の [] に言葉を入れて完成させましょう。

雪の中に [] ころがるようにして

十メートルも向こう へにげました。

五、上の文章は、大きく三つに分けることができます。書かれている順番を () に書きましょう。

- (2) () 子ぎつねが初めて雪を見た場面
- (1) () 物語の場面を説明するだん落
- (3) () 子ぎつねが雪の中で遊ぶ場面